

# 海自 米要請で北朝鮮船監視

## 黄海・日本海に護衛艦

### 制裁理由に 米国と軍事一体化加速

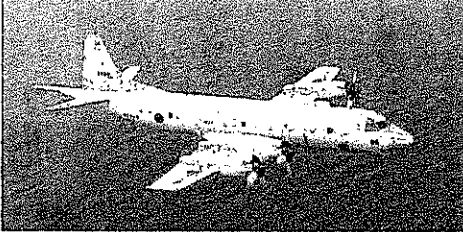
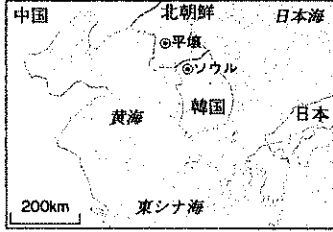
核・ミサイル開発を続ける北朝鮮に対する国連安全保障理事会の制裁決議の「履行」を理由に、海上自衛隊の護衛艦や哨戒機が昨年12月から日本海や朝鮮半島西側の黄海で、外国船から北朝鮮船舶への石油などの移し替えがなにか警戒監視活動に当たっていることが13日、政府関係者への取材で分かりました。

海自が撮影し、米海軍に情報を提供します。東シナ海などを常時警戒監視しているF3C哨戒機が不審船を発見した場合、護衛艦を現場に派遣します。

政府関係者は「監視活動を顕示することで北朝鮮への石油製品の密輸を抑止することにつながる」としています。

米政府は昨年11月に北朝鮮船舶が制裁決議に違反する船舶間の積み替えを行っているとの指摘。積み替えの様子を撮影した写真を公表

臨検 船舶を強制的に停止させ検査する軍事活動。相手が停止しなかったり、検査に抵抗した場合には武力行使する権限を含むため、交戦に至る危険があります。



海上自衛隊の哨戒機

## 9条空洞化の危険

飯島澄明・名古屋学院大学教授（憲法学）の話。日本が「法治国家」であれば、軍事組織である自衛隊の活動には法的根拠が必要だが、海上自衛隊が朝鮮半島西側の黄海などの公海上で

北朝鮮船舶を監視する法的根拠は明確ではありません。むしろ自衛隊による北朝鮮船舶の監視は米軍の「臨検」活動の一環であり、憲法9条2項の「交戦権」否認の意義を空洞化する危険性があります。さらに米軍軍一体化」をすすめて

く、外交や対話などの平和的手段の実践を関係国に働きかけるべきです。

国務省は12日に北朝鮮船舶への「臨検」を強化する方針を明記した共同声明を発表しましたが、この声明に日本も署名しました。歴代

